

令和7年度(2025年度)

カリキュラム編成書

映像放送科

東北電子専門学校

映像放送科

育成人材像

- ① 技術進歩の早い映像・放送コンテンツ業界において、クリエイティブセンスとテクニカルスキルを身に付け、カメラマン、エディター、ミキサーなど、映像技術者として番組制作に携わり、優良な番組を仕上げることができる。
- ② 放送、Web動画、映画など、多様なメディアを対象としたディレクションスキルを身に付け、映像ディレクターとして時代に即した映像コンテンツを制作することができる。
- ③ コンピュータによる映像表現に関する知識とノンリニア編集ソフトの操作技能を身に付け、ディレクターの意図に沿った映像編集ができる。

身に付ける能力

- ① 映像、音響、照明、CGの授業を通して、イメージを具現化する基礎技術を学び、コンテンツ制作を行うことができる。
- ② カメラ、照明機器、音響機器、送信設備等の放送機器に関する知識と操作技術を身に付け、放送業界で円滑に業務を遂行できる。
- ③ 音響制作科との合同授業(ステージ制作)により、制作・技術スタッフや出演者との関りを学び、チームワークの重要性を理解し、プロジェクトを円滑に進めるためのディレクションスキルを身に付け、映像コンテンツの制作ができるようになる。
- ④ ディレクションスキルとテクニカルスキルをインターンシップ(現場実習・課外実習)で実践し、実務に応用できる。
- ⑤ ニュース報道など中継現場から放送する場合必要となる、第1級陸上特殊無線技士の資格取得に必要な、電気に関する知識、電波の基礎知識、電波法、無線設備、無線従事者の仕事等の知識を身に付ける。

教育課程編成方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、映像放送分野における基礎的知識、映像編集・画像編集・CG制作アプリケーションの基本的操作能力、スイッチャーやカメラなどのスタジオ機材の操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 2年次は、1年次に身に付けたアプリケーション、機材の操作法の応用力を高め、映像技術分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 2年次は、番組制作や公開にかかわるコンプライアンス、台本構成と文章表現など、映像制作分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 2年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングの他、業界企業研究を行う。
- ② 映像放送分野における知識習得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 映像編集・画像編集アプリケーション、スタジオ機材の操作技能を身に付けるための専門科目は実習形式で行う。各科目年間3作品程度の課題を作成し、映像放送業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、スタジオ番組制作実習としてトーク番組、ニュース番組、情報番組などを制作し、スタジオにおける番組制作に必要な技術や知識を身に付ける。

目標資格

- ・映像音響処理技術者
- ・第1級陸上特殊無線技士
- ・マルチメディア検定 ベーシック

目指す職種

- ・ディレクター ・カメラマン ・TV音声スタッフ ・ライティングディレクター ・テクニカルディレクター
- ・テレビ中継スタッフ ・映像編集者 ・ビデオエンジニア ・映像クリエイター

企業連携実習

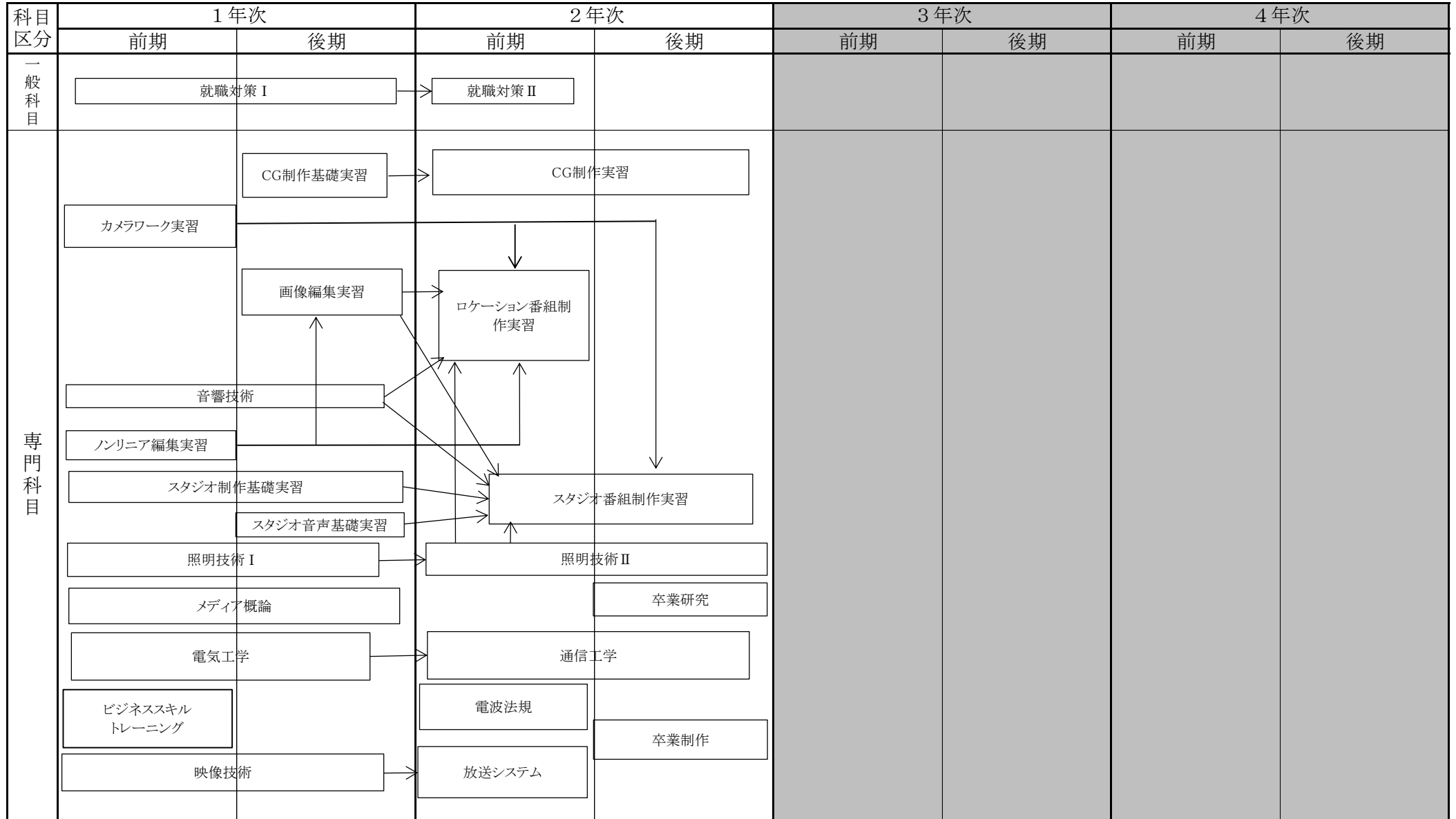
(株)仙台放送エンタープライズ

業界や企業との提携／外部イベント／コンテスト等

- ・放送局(ケーブルテレビも含む)
- ・東北映像製作社協会主催によるインターンシップ
- ・日本映画テレビ協会東北支部主催によるセミナー研修

科目関連図

映像放送科



映像放送科

1年

シラバス

作成日:2025年4月1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	就職対策Ⅰ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	木須 紀子	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】 就職活動時の一般常識試験に対応できる能力を身につけることを目的とする。 【概要】 自己分析を行い適職を知り、就職活動時に必要となるエントリーシートや履歴書の書き方を学ぶ。また会社訪問のしかたや面接対策の実践トレーニングを行い、就職活動に必要な知識を学ぶ。				
到 達 目 標	就職試験で行われる、一般常識やSPI(総合適性検査)などに合格する水準の知識を身に付ける。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		※別紙 就職対策Ⅰ(別紙①授業計画)			
使 用 教 材	・Webコンテンツ LINESを利用(遠隔授業) ・面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)				
履 修 上 の 意 注	・コマごとの学習目標を掴み、時間内に理解できるようにする。 ・理解できなかった所や復習のため、Webコンテンツ・eラーニングを活用し理解度を高める。 ・ノートをきちんと取り、復習や予習に活かす。 ・以上でも解らなかった所は、Teamsで担当教員に聞き理解できるようにする。				
成 績 評 価 の 方 法	・実力試験の成績(年4回実施:ペーパーテスト):60% ・Webコンテンツの回答実績など授業への取り組む姿勢40%などで総合的に評価する。				

就 職 対 策 I

作成日：2025年4月1日

< 前 期 >

授業	教科・ジャンル	学習内容	ラインズ・コース
1	数学 オリエンテーション・数の体系1	整数・小数の四則演算	ベーシック
2	数学 数の体系1・数の体系2	()を使った計算、分数の四則演算	ベーシック
3	数学 数の体系2	負の数の四則演算、数の体系、整数の性質	ベーシック
4	数学 単位／組み合わせ・確率	いろいろな単位、単位当たりの大きさ、百分率	ベーシック
5	数学 単位／組み合わせ・確率	平均値・統計・調査	ベーシック
6	数学 量の関係・文字式・関数	2つの量の関係、文字を使った式、比例、一次関数・グラフ	ベーシック
7	数学 量の関係・文字式・関数	方程式・連立方程式	ベーシック
8	数学 累乗・二次方程式	平方根、二次方程式の基礎	ベーシック
9	数学 累乗・二次方程式	式の展開、因数分解、二次方程式の応用	ベーシック
10	数学 図形	図形の基本、面積、体積	ベーシック
11	数学 図形	合同・相似、三平方の定理	ベーシック
12	SPI非言語	SPI計算の基礎、SPI非言語出題分野の基礎、演習問題(割合)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
13	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(未知数の計算、特殊な割合の計算)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
14	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(代金の清算、代金の割合)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
15	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(分割払い、損益算)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
16	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(速さ、場合の数、確率)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
17	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(グラフと領域、集合、推論)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
18	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(表の読取、入出力装置)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野
19	SPI非言語	SPI非言語分野の基礎、演習問題(経路図、資料・長文の読取など)	SPI解法のテクニック[基礎]非言語分野

< 後 期 >

授業	教科・ジャンル	学習内容	ラインズ・コース
1	国語 漢字の読み書き	漢字1～5	スタンダード
2	国語 熟語	熟語の構成、熟語、慣用句・反対語・故事成語・ことわざ	スタンダード
3	国語 敬語	敬語の種類、尊敬語、謙譲語、丁寧語	スタンダード
4	SPI言語	2語の対応関係、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
5	SPI言語	語句の用法、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
6	SPI言語	語句の意味、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
7	SPI言語	熟語の意味、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
8	SPI言語	熟語の成り立ち、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
9	SPI言語	文章の並べ替え、長文読解、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
10	SPI言語	三文構成、空欄補充、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
11	SPI言語	空欄補充・文、長文の要約、演習問題(言語分野)	SPI解法のテクニック言語分野
12	社会 政治・経済、国際・社会生活	経済の仕組み、日本国憲法、世界経済、国民経済と福祉、世界政治等	スタンダード
13	理科 生物	植物、動物、消化と吸収、細胞、遺伝	スタンダード
14	理科 気象・地学・天文など	地層、気象、日本の天気、天体、科学技術と人間、自然と人間	スタンダード
15	SPI模擬テスト マークシート	非言語分野	マークシート1
16	SPI模擬テスト マークシート	言語分野	マークシート1
17	SPI模擬テスト WEBテストニング	非言語分野・言語分野	WEBテストニング1
18	SPI模擬テスト テストセンター	非言語分野・言語分野	テストセンター・固定
19	SPI模擬テスト テストセンター	非言語分野・言語分野	テストセンター・IRT

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		メディア概論		科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次		1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態 (講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週		1	総授業コマ数	38	単 位 数 2
担 当 教 員		篠 拓勇希	実 務 経 験		
目的 / 概要		【目的】 マルチメディアは、文字・音声・画像・動画などの情報をデジタル技術で統合することでコミュニケーションを可能にするものであり、私たちの身近にも浸透している。マルチメディア技術の根幹をなすデジタル端末(コンピュータなど)やその周辺機器、インターネットなど、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、セキュリティ技術、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を習得することを目標とする。 【概要】 画像、映像、音響などコンピュータで扱える全ての情報であるマルチメディアを用いて、何ができるのか、またどのような機器が必要になるのかなど基本となる知識を学ぶ。			
到達 目 標		マルチメディアの扱い方とインターネットを用いたコミュニケーション技術に関する基礎的な事柄を説明できるようになる。また、その知識を多様な生活の場面で発揮できるようにし、マルチメディア検定ベーシックの合格を目指す。			
目 標 資 格		マルチメディア検定ベーシック 【検定日】2025年11月30日(日) 【検定料】5,600円			
前提 知 識		高等学校の程度の知識			
授 業 計 画		コマ数	授 業 内 容		
		3	マルチメディアの特徴:アナログとデジタル・マルチメディアを構成する要素・ヒューマンインタフェース視覚と聴覚		
		3	デジタル端末:マルチメディアを扱う端末・コンピュータの構成・OS・ポータブル記録メディア		
		4	コンテンツ制作のためのメディア処理:ファイルフォーマット・文書の作成・画像処理・映像や音声の編集と再生・3次元CG・Webページの作成		
		3	インターネットと通信:インターネットの仕組みと役割・インターネット接続・ブローバンドネットワーク・モバイル通信		
		3	インターネットで提供されるサービス:WWW・コミュニケーションサービスやツール・インターネット上で提供されるサービス		
		3	インターネットビジネス:オンラインショッピング・金融サービス・コンテンツ配信・広告とマーケティング		
		3	デジタルとネットワークで進化するライフスタイル:情報家電・テレビと映像コンテンツ・サービスロボット・ゲーム機の変化		
		3	社会に広がるマルチメディア:ICカード・街角のマルチメディア・交通・医療と福祉・学術と文化・行政と政治		
		3	セキュリティと情報リテラシ:セキュリティ・個人情報の保護・知的財産権		
		5	基礎:情報(基数変換・BCD、固定小数点数と浮動小数点数)・論理演算		
		5	映像音響処理技術者資格認定試験:デジタルメディア・コンピュータ基礎問題		
		計	38		
使 用 教 材		入門マルチメディア(CG-ARTS協会)			
履 修 上 の 意 注		・授業は必要に応じ、板書したり、プリントなどを利用するので、ノートを用意すること。 ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること。			
成績 評 価 の 方 法		・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。			

シラバス

作成日：2025年4月1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		ビジネススキルトレーニング		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次		1	履 修 学 期	前期	授 業 形 態
コマ数 / 週		1	総授業コマ数	19	単 位 数
担 当 教 員		篠 拓勇希	実 務 経 験		
目 的 / 概 要		【目的】 個人情報の取り扱い、SNS利用時の注意点などを学習することでネットトラブルから身を守る方法を修得するとともに他者の権利を侵害し法的責任を負う危険性を回避できるよう著作権についても学習する。 また、情報関連科目を学習するために必要なWindowsの基本操作や、Word、PowerPoint等のオフィスソフトの基本操作を修得する。 【概要】 ビジネス社会で用いられるアプリケーションソフトウェアの操作や、ネット社会におけるモラルやセキュリティについて学ぶ。			
到 達 目 標		・ホームページの閲覧方法を知り、検索エンジンを使って必要な情報をインターネットから得ることができる ・学生用グループウェアサービスを知り、それを使ってEメールを利用できる。 ・インターネット社会の「光」と「影」の両面を理解し、説明できる。 ・インターネット社会で守るべきルールやマナーを理解し、説明できる。 ・アカウントやパスワードの取り扱いと管理のしかたを説明できる。 ・個人情報の取り扱い、著作権、SNS利用時の危険性について理解し、様々なネットトラブルから身を守るができる。 ・著作物の文化的意義を理解し、著作権を尊重する態度を理解し、説明できる。 ・Windowsの基本操作を習得し、操作できる。 ・Wordによる文書作成や表作成、図形や画像を利用した文書を作成できる。 ・PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成、アニメーション効果や音響効果を盛り込んだスライド作成ができる。 ・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などについて理解する			
目 標 資 格		特になし			
前 提 知 識		・高等学校の情報科目履修程度の知識 ・マウスの使用、簡単な文字入力			
授 業 計 画		コマ数	授 業 内 容		
		2	・パソコンリテラシーWindowsの基本操作など		
		5	・情報リテラシー 情報モラル教育		
		3	・AIリテラシに関する動画の視聴及び関連用語の理解 AIに関連するテーマを設定しグループワーク・成果発表を行うなどアクティブラーニングを実践する。		
		1	・学生用グループウェアサービス、Eメールの利用		
		8	・Office2021テキスト		
計		19			
使 用 教 材		・Infoss e-Learning: 情報倫理 ・Office2021テキスト(実教出版) ・Udemy「はじめてのAI」			
履 修 上 の 意 注		・e-Learningは視聴の際は大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をを行う。 ・テキストを持参すること。			
成 績 評 価 の 方 法		・e-Learningの終了テスト ・テキスト課題の提出物 ・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する			

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		映像技術		科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	(講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に勤務		
目 的 / 概 要	【目的】 放送や番組制作のための設備や使用機器を理解するために必要な信号の成り立ち、信号の意味や役割などを理解し、それぞれの機器の基本動作やポストプロダクション業務の内容を学び、映像コンテンツの制作技術スタッフとしての知識を身に付けることを目的とする。 【概要】 地上デジタル放送、ビデオオンデマンドサービス、デジタルサイネージやライブ映像など、映像コンテンツの制作技術を学ぶ。				
到 達 目 標	地上デジタル放送、ビデオオンデマンドサービス、デジタルサイネージやライブ映像など、映像コンテンツの制作技術の知識を身に付け、映像音響処理技術者資格認定試験の合格を目指す。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	電気・電子に関する物理の知識、興味があれば望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	76	ポストプロダクション業務 ・映像・音声の基礎とポストプロダクション ・映像の特徴 ・放送 ・映像信号の成り立ち ・映像信号の記録システム ・様々な用途のデジタル映像 ・映像の編集			
	38	テレビ番組の制作技術 ・番組制作の流れ ・番組制作の形態 ・番組制作スタッフの役割 ・スイッチングの基礎 ・デジタルVTRの基礎			
	計	114			
使 用 教 材	・担当者作成のプリント ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集 (2025年度版:日本ポストプロダクション協会)				
履 修 上 の 意 注	映像制作および放送における、信号や機器の理解は必須であるのでしっかり習得すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査80%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		音響技術		科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	(講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	酒井 淳	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】 音の理論を理解するとともに、音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解し、映像音響処理技術者認定試験の合格をめざすことを目的とする。 【概要】 音源や音響の基礎、音響機器の種類、構造、機能、用途やミキシング技術、音響デザイン、機器メンテナンスなどを学ぶ。				
到 達 目 標	・ 音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できる。 ・ マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できる。 ・ 楽器を中心とした音の特性を説明できる。 ・ 仕事別音響設備が理解できる。 ・ 各規格を理解し対応できる。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	交流信号などの電氣的知識が多少必要				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	19	音の理論			
	38	音響機器の名称、役割、構造、動作原理、使用例			
	19	音響設備・システムについて			
計	76				
使 用 教 材	ポストプロダクション技術マニュアル(JPPA)				
履 修 上 の 意 注	・授業は板書するので、ノートを用意すること。 ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること。				
成 績 評 価 方 法	・定期考査80%授業への取り組み姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	照明技術Ⅰ			科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	(講義) / (実習) / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	原 田 建	実 務 経 験	制作技術会社でテレビ照明に従事したほか、イベント・舞台照明にも従事。		
目 的 / 概 要	【目的】 対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得することを目的とする。 【概要】 音源や音響の基礎、音響機器の種類、構造、機能、用途やミキシング技術、音響デザイン、機器メンテナンスなどを学ぶ。				
到 達 目 標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること。合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できる。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	高校までに学んだ学習内容と一般常識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い			
	6	舞台、テレビの照明設備とその歴史			
	15	光と色、視覚について、照明工学、明視論			
	15	光源、調光装置と照明器具			
	15	舞台、テレビの照明技術の基礎理論			
	15	照明デザインと仕込み図の制作、舞台機構と安全管理			
計	76				
使 用 教 材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)				
履 修 上 の 意 注	教科書の内容や板書したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次回の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		電気工学		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	前期3・後期2	総授業コマ数	95	単 位 数	5
担 当 教 員	岩渕 正則	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】 電気・電子に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を身に付けるとともに、2年次に通信工学を履修するために必要な電気数学の基礎を身に付けることを目的とする。 【概要】 電気回路解析に必要な電気数学、電気基礎(直流回路、交流回路)、電子回路(発信作用、増幅作用)を学ぶ。				
到 達 目 標	・電気回路の構成、抵抗・電圧・電流の関係、抵抗の接続と電圧・電流の関係を 説明できる。 ・電流による発熱作用を理解させ、電力、電力量、発生熱量と温度上昇について考えさせ、消費電力と温度上昇の計算ができる。 ・抵抗率・導電率、抵抗温度係数を理解させ、基本的計算ができるようにし、実際の材料との関係を説明できる。 ・磁気現象と磁気回路の構成の仕方、磁界の強さ、磁束密度、磁曲線、電磁力、 電磁誘導作用、電磁エネルギーについて物理現象について説明できる。 ・静電現象について理解させ、静電容量回路の計算ができる。 ・第一級特殊無線技士の専門科目(通信工学、電気基礎及び電子回路)の履修に必要な数学を理解し、第一級特殊無線技士の免許を取得する。 ・交流の基本的要素、表し方を理解し簡単な回路の計算ができる。 ・ダイオードとトランジスタの基本的動作を説明できる。 ・トランジスタの発振とスイッチングの回路、仕組みについて説明できる。 ・電源の基本的回路を習得し、交流から直流を作る原理を説明できる。				
目 標 資 格	・第一級特殊無線技士				
前 提 知 識	・高等学校の数Ⅰ・数Ⅱの一部(連立方程式・三角関数・指数・対数・ベクトル・虚数の基礎的知識) また、電気に関する物理の知識があるほうが望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	直流の基礎			
	8	電力と電気抵抗			
	15	磁気の基礎と静電気の基礎			
	6	式の計算(公約数、分数式の計算、四則計算、無理数と平方根)			
	6	方程式とグラフ(一次方程式、二次方程式、連立方程式、比例と反比例)			
	14	三角関数と正弦波交流、複素数と交流計算、微分と積分			
	10	交流の基礎			
	10	ダイオードとトランジスタ			
	9	トランジスタの発振とスイッチング			
計	95	電源			
使 用 教 材	プログラム学習による電気・電子メカトロ基礎講座1(廣済堂出版) 電気のための基礎数学(東京電機大学出版局) 各章の演習問題プリント〔演習・解説プリント〕				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートを用意すること。 ・計算が必要になるので、電卓を用意すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査80%・課題小テスト10%・授業への取り組み姿勢10%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		カメラワーク実習		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 <u>実習</u> / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。		
目 的 / 概 要	【目的】 実習を通じてカメラと三脚の取り扱い方を身に付けるとともに、カメラポジションやアングル、画面サイズなどを学び、カメラマンとしての基礎スキルを身に付けることを目的とする。 【概要】 映像表現に必要な不可欠なカメラワーク(ポジション・アングル・サイズ・カメラ操作・画面構成)を実習を通して学ぶ。				
到 達 目 標	・ 実際の操作を通して、レンズの構造や操作方法、カメラの構造と操作方法、さらに状況に合わせた撮影に必要な具体的操作ができること。 ・ 撮影における三脚の重要性と手持ち撮影の違いを理解し、操作できること。 ・ 作品制作やインターンシップ(校外実習)等で通用するカメラワークを修得する。 ・ コンテンツに合わせた表現方法やメディアに合わせた構図表現ができること。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	レンズの構造や操作方法、カメラの構造と操作方法、状況に合わせた撮影に必要な具体的操作、撮影における三脚の重要性とフリーハンド撮影の違いを理解する。			
	26	【実習】 レンズ操作、カメラポジション、カメラアングル、サイズ、カメラ操作、構図を理解し、習得する。 【課題撮影実習】 スタジオ撮影、取材撮影による課題撮影を行う。			
	2	【レポート作成】 撮影映像を自己評価を行い、レポートにまとめる。			
計	38				
使 用 教 材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) プロのためのビデオ取材(日本映画テレビ技術協会) 業務用スタジオカメラ・業務用ENGカメラ				
履 修 上 の 意 注	・自ら目標を決めて前向きに取り組む姿勢が必要 ・レポート作成に当たっては、しっかり調べて完成度の高いレポートを作成すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・実技評価、・レポート70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		スタジオ制作基礎実習		科 目 分 類	①独 自 / 共 通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講 義 / ②実 習 / 演 習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。		
目 的 / 概 要	【目的】 実習スタジオのシステム系統を理解する事により、スタジオ番組の制作手順や制作に必要な技術を学び、基礎的なスタジオ番組を制作できるようになることを目的とする。 【概要】 スタジオ番組制作に必要なスタジオの映像システムや機器の役割、働きなどを実習を通して学ぶ。				
到 達 目 標	・コンポジット信号とコンポーネント信号について説明できる。 ・映像信号の数値レベルと画面評価を理解し、測定器で読める。 ・制作や放送に必要なシステムを理解し、最も重要な同期信号と伝送システムにおける同期結合が説明できる。 ・日常業務で使用される波形モニターとベクトルスコープの取り扱いと信号測定ができる。 ・制作内容に合わせてシステム拡張や変更使用されるパッチ盤の動作や使用方法を理解し、具体的にシステム変更ができる。 ・制作で最も重要な「スイッチャー」の動作や操作方法を理解し、指定フォーマット通りに画面切り替えができる。 ・カメラ調整ができる。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	6	コンポーネント信号、コンポジット信号、同期信号、同期結合を理解し、各部信号の名称と測定方法、大きさの説明、SD, HD映像系統を理解し、制作に応じたシステム変更方法を説明演習、カメラの調整方法とスイッチング手法の説明演習			
		カメラの調整方法とスイッチング手法を学ぶ			
	8	システム変更、カメラ調整、スイッチング実習。			
	22	課題番組制作: 番組制作の流れとスタジオのシステムを理解する。			
計	2	レポート作成: 課題実習を振り返りレポートにまとめる。			
	38	課題実習を振り返りレポートにまとめる。			
使 用 教 材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ポストプロダクション技術マニュアル(日本ポストプロダクション協会) プロのためのビデオ取材(日本映画テレビ技術協会)				
履 修 上 の 意 注	・自ら目標を決めて前向きに取り組むこと。 ・レポート作成に当たっては、しっかり調べて完成度の高いレポートを作成すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・実技評価、・レポート70%・授業への取り組む姿勢30%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		スタジオ音声基礎実習		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】 スタジオ番組制作、ロケーション番組制作に必要な音声技術の基本的技術を修得することを目的とする。 【概要】 音源や音響の基礎、音響機器の種類、構造、機能、用途やミキシング技術、音響デザイン、機器メンテナンスなどを学ぶ。				
到 達 目 標	・番組目的別にマイクを選定しセッティングすることが出来る。 ・マイクおよび再生機器から収録機器までの接続が出来、信号のチェックが出来る。 ・音声信号を正しくミキシング出来る。 ・ミキシングした音を映像と共に収録および再生が出来る。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	1年次前期で学んだ音響技術				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	スタジオの機器・設備と電源投入			
	4	マイクの種類と選定および取り扱いとセッティング			
	8	ミキシングとレベル設定			
	4	他のメディアのインサート			
	8	収録と再生			
	4	DAWによるMA			
	8	音声の取材			
	計	38			
使 用 教 材	・ポストプロダクション技術マニュアル(日本ポストプロダクション協会)				
履 修 上 の 意 注	映像コンテンツ制作には音声(音響技術)が欠かせないことを意識して授業を受けること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査80%・授業への取り組み姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		ノンリニア編集実習		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 (実習) / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。		
目 的 / 概 要	【目的】 映像編集という業務の重要性を理解するとともに、編集ソフトPremiereProの基本的な操作が出来るようになることを目的とする。 【概要】 ノンリニア編集に必要なアプリケーションソフトの操作方法や、撮影素材の取り込みから編集作業が完了するまでのコンテンツ制作の基本を学ぶ。				
到 達 目 標	編集の意味、そして編集作業の基本的な考え方を理解するとともに、タイトルの入れ方、BGMの編集などのスキルを身に付け、クオリティーの高いコンテンツを仕上げられるようになることを目標とする。				
目 標 資 格	映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識	パソコン操作の基礎知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	6	編集の基本、エディターとは を理解。			
	10	いろいろな表現の仕方、編集者の責任、音声、字幕の編集を理解。			
	5	映像の基本知識 (Premiereで出来る事)、基本操作を修得。			
	7	カット編集、音声やタイトルの入れ方を修得。			
計	10	特殊な効果で映像演出、クオリティーの高い映像編集テクニックを理解。			
	38				
使 用 教 材	PremierePro&AfterEffects(cc/cs6対応版) (技術評論社)				
履 修 上 の 意 注	映像編集の目的を理解し、いろいろな表現をイメージ出来るように取り組む。				
成 績 評 価 の 方 法	・実技評価、課題評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年4月1日

学 科 名		映像放送科				
コ ー ス 名						
科 目 名		画像編集実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習	
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2	
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。			
目 的 / 概 要		【目的】 テロップ作成など、映像コンテンツの制作に必要なアプリケーション「Photoshop」の操作方法を習得することを目的とする。 【概要】 PhotoshopやAfterEffectsの機能を理解し、課題制作を通して、デジタルエフェクトの活用方法や効果、表現テクニックを学ぶ。				
到 達 目 標		・Photoshopの機能を理解しながら作品制作をマスターし、課題作品制作ができる。				
目 標 資 格		映像音響処理技術者 【検定日】2026年6月上旬 【検定料】5,500円(本年度検定料)				
前 提 知 識		・パソコン操作の基礎知識 ・前期「ノンリニア編集実習」の知識				
授 業 計 画		コマ数	授 業 内 容			
			【Photoshop】			
		5	ペンツール、ブラシツールの使い方、画像の選択とコピー、ペースト			
		5	レイヤーの使用とその効果について、色調補正、フィルタ、カラーモード、画像解像度の設定			
		10	写真の加工修整(コピースタンプツール、修正ブラシ等)			
		5	映像用テロップ制作			
		8	作品制作			
		5	AfterEffectsの基本			
計		38				
使 用 教 材		Photoshopしっかり入門 (SBクリエイティブ)				
履 修 上 の 意 注		テロップの目的を理解し、いろいろな表現をイメージ出来るように取り組む。				
成 績 評 価 の 方 法		・実技評価、課題評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	CG制作基礎実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	井上 将人	実 務 経 験	業務系アプリケーション開発にて、企業向けアプリ・システム開発を経験、その後ポストプロダクションにて映像制作のサポートやトラブルシューティングを行う。		
目 的 / 概 要	【目的】 3DCGの基礎を修得しリアルタイム映像用素材を作成できるようになることを目的とする。 【概要】 3DCG制作ソフトの基本操作を学修し、CG制作の基礎を学ぶ。				
到 達 目 標	・3DCGアプリケーションを用いて簡単なCGモデルが制作できるようになる。 ・自作した画像をCGモデルに適用し、テクスチャマッピングが行なえるようになる。				
目 標 資 格	なし				
前 提 知 識	一年次に学習した科目の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	・3DCGアプリケーション基本操作			
	16	・ポリゴンモデリングの基本、ライティングの基本、カメラ設定の基本			
	18	・アニメーション制作の基本、UV設定とテクスチャマッピングの基本			
計	38				
使 用 教 材	教員が配布する資料、データ				
履 修 上 の 意 注	・3DCG制作実習は提出した作品データで評価する。未提出は評価しないので注意すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

映像放送科

2年

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	就職対策Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動(エントリーシート作成・履歴書記入・作文・面接試験)の支援を目的とする。 【概要】 受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、実践的な就活トレーニングをする。				
到 達 目 標	- 志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。 - 作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。 - 入退出から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。 - 面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	エントリーシート、履歴書記入演習			
	10	面接試験対策(入退出から応対、言葉使い、質疑応答)演習			
	10	作文、論文演習			
	10	個別面談			
計	38				
使 用 教 材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)				
履 修 上 の 意 注	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと				
成 績 評 価 の 方 法	・一般常識実力試験80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	放送システム			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	民間放送局で放送技術(番組送出、CMバンク)制作技術(撮影、収録、録音)に勤務		
目 的 / 概 要	【目的】 FPU伝送、通信衛星(CS)伝送、光ファイバーネットワークを用いた伝送、公衆回線の放送利用など、様々な映像伝送システムを理解することで、各メディアにおける放送・配信業務を円滑に行えることを目的とする。 【概要】 デジタル放送のシステムを通して、符号化技術、伝送技術、デジタル変調技術を学ぶ。				
到 達 目 標	・中継システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)を結びつけて説明ができる。 ・地上デジタル放送とBSデジタル放送の違いを説明できる。 ・高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)をそれぞれ説明できる。 ・伝送路の違いによる変調方式について、説明できる。 ・デジタル伝送方式の種類を説明できる ・データ放送サービスと仕組みを説明できる。 ・ネット配信とワンセグについて、説明できる。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	1年次に履修した映像技術の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	ニュース番組、スポーツ中継、報道中継システムと伝送方法(FPU伝送、CS伝送、光ファイバー伝送)			
	2	地上デジタル放送とBSデジタル放送の違い			
	14	高効率符号化技術(映像・音声・多重、伝送)			
	14	伝送路の違いによる変調方式			
	2	データ放送サービスと仕組み			
計	2	ネット配信とワンセグ			
	38				
使 用 教 材	担当者作成のプリント(解説プリント) テレビ番組の制作技術増補版(兼六館出版)				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用のノートを用意すること。 ・これからの放送メディアに欠かせない専門知識なのでしっかりと習得すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	照明技術Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	原 田 建	実 務 経 験	制作技術会社でテレビ照明に従事したほか、イベント・舞台照明にも従事。		
目 的 / 概 要	【目的】 スタジオでの実習を通して、基本照明から番組形態による照明、演出を考えた照明などを学び、照明技術の知識を習得するとともに、照明で演出をすることが出来るようになることを目的とする。 【概要】 対談番組や歌番組制作実習を通して、作業に関する安全衛生や関係法規、実践的なライティングプランと技術を学ぶ。				
到 達 目 標	・ 人物の基本照明を理解し、点光源と面光源の違いなどを学ぶ。また、物撮り照明の陰影の違いと人物のライティングを修得する。 ・ 対談番組、ニュース番組、歌番組など番組形態の違いによる、照明の考え方、照明器具の選定、仕込み作業、ライティングなど、制作実習を通じて修得する。 ・ 番組演出を考えたライティングプランの作成と実際のライティングを修得する。また、暖色系や寒色系など、映像描写を考えた色フィルターの使い方などを修得する。 ・ ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに映像描写、それに伴う照明を修得する。 以上の4点が具体的にできる。または、具体的に説明できることとする。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	1年次に履修した「照明技術Ⅰ」の内容を理解していること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	19	人物の基本照明・点光源と面光源の違い・物撮り照明の陰影の違い・光物のライティング			
	19	番組形態の違いによる、照明の考え方、照明器具の選定、仕込み作業、ライティング			
	19	番組演出を考えたライティングプランの作成と実際のライティング			
	19	ENGカメラを使った実習を通じて、光源の違いに映像描写、それに伴う照明			
計	76				
使 用 教 材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)				
履 修 上 の 意 注	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に言い、即時に解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	ロケーション番組制作実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	4	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。		
目 的 / 概 要	【目的】 ロケーション番組制作の考え方を学ぶとともに、プリプロからポストプロまでの一貫した実習を行うことで、ロケーション番組を制作することが出来るようになることを目的とする。 【概要】 制作スタッフチームを編成し、オールロケーション番組を制作する。ロケーション番組におけるプリプロから撮影・編集と、完パケまでの流れを実習し、「創る楽しさ」や番組制作に必要なチームワーク、スタッフの関係と役割などを学ぶ。				
到 達 目 標	実習を通して、番組形態による制作の考え方、台本構成、文章表現、演出を考えたカメラワーク、音声処理、インタビュー手法、ノンリニア編集を理解し、具体的にロケーション番組が制作できる。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	1年次の履修内容(ノンリニア編集実習、カメラワーク実習など)が理解できていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8	ロケーション番組形態による制作の考え方と基本姿勢を理解する			
	8	演出によるカメラワーク・台本構成と文章表現を理解する。			
	8	ロケーション番組制作の音声のシステム、手法を理解する。			
	8	ノンリニア編集(システム、取り込みから完成まで)を理解するb。			
計	44	課題番組制作(企画構成・取材・撮影・編集・完パケ)			
	76				
使 用 教 材	実習設備(撮影・編集・音響・照明・ノンリニア編集システム)一式				
履 修 上 の 意 注	意欲を持って真面目に、そして、積極的に活動すること				
成 績 評 価 の 方 法	・課題作品、課題レポート80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		スタジオ番組制作実習		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義△実習 / 演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	畑中 雅明 篠 拓勇希	実 務 経 験	地元放送局にて約30年間カメラマンとして勤務		
目 的 / 概 要	「企業連携実習科目」 【目的】株式会社仙台放送エンタープライズとの連携により、現場講師によるトーク番組、ミュージック番組、ニュース番組などの スタジオ制作実習を通して、番組形態による制作の考え方や基本姿勢と台本構成や文章表現、演出方法を学び、 実践的かつ専門的な能力を身に付けることを目的とする。 【概要】スタジオ番組(トーク番組、ミュージック番組、ニュース番組)制作実習を通して、番組を創るための制作手法や スタッフの責任感や連帯感、関わりを学びながら実践的なスキルを学ぶ。				
到 達 目 標	・番組によってテーマ、コンセプト、視聴対象、表現方法などが異なることを学び、それに合わせた制作の 考え方や基本姿勢を修得する。 ・ドラマやスポーツ番組など内容や演出により変化する画面サイズとカメラワークを制作実習を通じて修得する。 ・番組形態により変化する台本構成と文章表現を実習を通じて、言葉と映像を通して具体化する。 ・番組・CM・PV(プロモーションビデオ)制作を通してメディアの異なる表現や「もの創り」について学ぶ。 ・制作実習を通じて、スタッフの役割と仕事を学び、技術と演出の両面のレベルアップを図る。 スタジオ番組制作実習を通して、番組形態による制作の考え方、台本構成、文章表現、演出を考えた カメラワーク、音声処理、照明演出を理解し、具体的にスタジオ番組が制作できる。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	1年次の履修内容(スタジオ制作基礎実習、スタジオ音声基礎実習など)が理解できていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	3	番組形態による制作の考え方と基本姿勢を理解する			
	2	演出による画面サイズとカメラワークを理解する			
	8	番組形態による台本構成と文章表現を知る			
	96	番組・CM・PV(プロモーションビデオ)制作の実際【課題制作】			
	2	制作スタッフの役割と仕事を知る			
計	3	補講			
	114				
使 用 教 材	担当者作成プリント				
履 修 上 の 意 注	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、 質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査、課題評価80・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	CG制作実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	岡安 正樹	実 務 経 験	写真・Web制作・広告制作など様々な業種でCG制作を経験。学生個人の特性に合わせ、それを活かした実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	【目的】 3DCGの基礎を習得し映像用CG素材を作成できるようになることを目的とする。 【概要】 CG制作基礎実習で修得した技術を元に実践的な技術修得とCGコンテンツ制作を学ぶ。				
到 達 目 標	・アニメーションが作成できるようになる。 ・実写と3DCGを合成した映像を作れるようになる。 ・チーム制作を通してコミュニケーションや役割分担などの社会性を身に付ける。				
目 標 資 格	なし				
前 提 知 識	1年次の「CG制作基礎実習」の内容が理解できていること				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		【前期】			
	4	ライティングの基礎			
	10	アニメーションの基礎と動画編集アプリケーションとの連携			
	8	立体ロゴの作成とアニメーション			
	8	3DCGによる再現映像の作成			
	8	チーム制作による報道番組の作成			
		【後期】			
	6	高度な質感設定とライティング			
	12	高品質なCG作品の作成			
20	チーム制作によるTV番組の作成				
計	76				
使 用 教 材	講師が配布する資料やデータ				
履 修 上 の 意 注	遅刻や欠席をしないよう、しっかりと自己管理をすること。				
成 績 評 価 の 方 法	・課題提出、課題作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	電波法規			科 目 分 類	独自／共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義／実習／演習
コマ数／週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	横田 広	実 務 経 験			
目 的 ／ 概 要	【目的】 第一級陸上特殊無線技士 長期型養成課程の法規科目の履修に必要な授業を行う。 無線従事者として必要な電波法、及び関連法を理解することにより、無線局の免許制度や無線設備を操作する無線従事者資格制度を理解し、無線局を運用するにあたっての原則や手続き知り、 第一級陸上特殊無線技士の免許を受けるにふさわしい知識を身につけることを目的とする。 【概要】 無線通信に必要な電波法規やその他電波法令について学ぶ。				
到 達 目 標	・電波法の目的、概要の概要を理解する。 ・無線局の免許の概要を理解する。 ・無線従事者の概要を理解する。 ・無線局の運用の概要を理解する。 ・業務書類の概要を理解する。 ・無線設備の概要を理解する。 ・監督の概要を理解する。 ・手数料、電波利用料、罰則の概要を理解する。 以上の項目を理解し、第1級陸上特殊無線技士免許申請の学科認定されること。				
目 標 資 格	第1級陸上特殊無線技士				
前 提 知 識	・特にないが、法律用語は表現が難しく見慣れない文章が多いので、日頃からさまざまな文章に接しておくことが望ましい。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	電波法の目的、概要			
	3	無線局の免許			
	2	無線従事者			
	2	無線局の運用			
	2	業務書類			
	2	無線設備			
	2	監督			
	2	手数料、電波利用料、罰則			
計	19				
使 用 教 材	・第一級陸上特殊無線技士用 法規(財団法人 電気通信振興会) ・法規問題プリント				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートを用意すること。 ・頭で理解するだけでなく、実際に条文や用語を書いたり、声を出して読んだりしながら覚えること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査、課題評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	通信工学			科 目 分 類	①独自／ 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	①講義／実習／演習
コマ数／週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	大森 博	実 務 経 験			
目 的 ／ 概 要	【目的】 ラジオ、テレビ、携帯電話、そして無線LANなど、我われの生活を支える基本的な無線技術を理解し、国家資格である第一級陸上特殊無線技士の認定レベルの知識を身に付けることを目的とする。 【概要】 携帯電話や衛星通信などの各種通信方式、送受信機、無線関連設備、アンテナ理論など無線通信について学ぶ。				
到 達 目 標	①マクスウェルの方程式などを通して電磁波の存在を理解するとともに、電波の利用形態を説明できること。 ②アンテナの基礎理論および代表的なアンテナの構造、動作原理、特徴について説明できること。 ③代表的な給電線路について、その構造、動作原理、及び特徴を説明できること。 以上の項目を理解し、第1級陸上特殊無線技士免許申請の学科認定されること。				
目 標 資 格	第1級陸上特殊無線技士				
前 提 知 識	1年次の「電気工学」が理解できていること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	16	電波の基礎			
	16	アンテナの理論と実際			
	4	給電線路			
	2	補講			
計	38				
使 用 教 材	・テキスト「ワイヤレス通信工学(コロナ社)」 ・担当者作成プリント(演習プリント、解説プリント) ・マイクロ波実験装置				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートを用意すること。 ・実習報告書は期限内に提出すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査、課題評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名		映像放送科			
コ ー ス 名					
科 目 名		通信工学		科 目 分 類	①独自／ 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	①講義／実習／演習
コマ数／週	3	総授業コマ数	57	単 位 数	3
担 当 教 員	大森 博 横田 広	実 務 経 験			
目 的 ／ 概 要	【目的】 ラジオ、テレビ、携帯電話、そして無線LANなど、我われの生活を支える基本的な無線技術を理解し、国家資格である第一級陸上特殊無線技士の認定レベルの知識を身に付けることを目的とする。 【概要】 携帯電話や衛星通信などの各種通信方式、送受信機、無線関連設備、アンテナ理論など無線通信について学ぶ。				
到 達 目 標	①電波の伝わり方を説明できること。 ②情報(信号)を電波に乗せて送信するための代表的な変調方式多重化の方式を説明できること。 ③固定局間通信や移動体通信などの代表的な通信システムを説明できること。 以上の項目を理解し、第1級陸上特殊無線技士免許申請の学科認定されること。				
目 標 資 格	第1級陸上特殊無線技士				
前 提 知 識	1年次の「電気工学」が理解できていること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	12	電波伝搬			
	12	変調方式			
	12	各種通信方式			
	21	FMトランスミッター組み立て実習			
計	57				
使 用 教 材	・テキスト「ワイヤレス通信工学(コロナ社)」 ・担当者作成プリント(演習プリント、解説プリント) ・マイクロ波実験装置 ・FMトランスミッター組み立てキット				
履 修 上 の 意 注	・まとめ用ノートを用意すること。 ・実習報告書は期限内に提出すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査、課題評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	卒業研究			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	【目的】 授業で学習した演出に関係する内容を自ら深く掘り下げ、情報収集、調査研究を行い、それをレポートのまとめ、その結果を研究発表し、個々の知識のレプルアップを図ることを目的とする。 【概要】 個人またはグループに分かれて、課題テーマの研究やプレゼンテーションを行い、専門スキルを向上させる。				
到 達 目 標	・研究テーマについて、収集した情報を整理できる。 ・研究テーマについて、考察ができ、レポートにまとめることができる。 ・研究内容をプレゼンテーションすることができる。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	レポート・論文作成法			
	20	研究テーマ決め、情報収集、研究			
	8	プレゼンテーション			
計	38				
使 用 教 材	思考を鍛えるレポート・論文作成法(慶応義塾大学出版局) 配布プリント				
履 修 上 の 意 注	・iPadと筆記用具を用意すること。 ・提出用レポート用紙を準備すること。 ・研究は、積極的に取り組むこと、また、疑問や問題点があれば持ち越さず、質問などを積極的に行い、すみやかに解決するように努力すること。				
成 績 評 価 の 方 法	・プレゼンテーション内容・レポート等提出物80%、授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2025年 4月 1日

学 科 名	映像放送科				
コ ー ス 名					
科 目 名	卒業制作			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	6	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	篠 拓勇希	実 務 経 験	映像制作会社に勤務し、主にテレビ番組の編集業務に従事。 その後フリーランスとして、情報番組のディレクターや編集業務、企業VPの制作などを請負う。		
目 的 / 概 要	【目的】 2年間学んできたことを活かして映像作品を制作する。その制作過程においては、自ら考え、行動し、結果を出すことのできるスキルを身につけるとともに、番組制作、公開に関わるコンプライアンスを学修することを目的とする。 【概要】 2年間の集大成として、それぞれ学んできた技術、知識、知恵を活かし、「もの創り」にチャレンジする。				
到 達 目 標	①相手の意見を聞き、自分の考えを伝え、協調性を持って制作に加わることができる。 ②担当するスタッフの業務を理解し、責任を持ってスタッフとしての役割を果たすことができる。 ③①②の結果が作品に反映できていること。 ④作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	2年間で学んできた専門知識を理解できていること。				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	12	プリプロ作業			
	78	撮影およびポストプロ作業			
	24	音響制作科が企画構成したステージイベント作品の収録			
計	114				
使 用 教 材	作品制作用資料及び実習機材				
履 修 上 の 意 注	”もの創り”に【前向きに取り組む】、【丁寧な表現】に心がけること。 制作姿勢、内容に【こだわり】を持つこと。				
成 績 評 価 の 方 法	・作品評価80%・授業への取り組む姿勢20%などを中心に総合的に評価する。				